



2021

# ライスボールセミナー

## “大学ではどんな研究をしているの？”

ライスボールセミナーは  
お昼休みに若手研究者による研究発表を聞いて  
自由にディスカッションを楽しめるセミナーで  
学生でも教職員でも参加できるので  
気軽に参加してみてくださいね！

【時 間】木曜日 12:20～12:50

【会 場】オンライン配信(Zoomウェビナー)

【参加費】無料・事前申込制

**5.13**

### 日本社会における「ハーフ」の社会史をめぐって

【講師】下地 ローレンス吉孝 日本学術振興会特別研究員 (PD)

お申込は↓



**5.27**

### 民話の力 —近代開発と現地コスモロジーのコンフリクト

【講師】古川 勇氣 衣笠総合研究機構 専門研究員

お申込は↓



**6.10**

### 許される売春、禁じられる恋愛 —戦前戦時下の私娼と性産業からみえる日本の姿—

【講師】寺澤 優 衣笠総合研究機構 専門研究員

お申込は↓



**6.24**

### 集団行動が苦手な人たちとの共生 —精神障害者の社会運動の歴史から考える

【講師】桐原 尚之 衣笠総合研究機構 専門研究員

お申込は↓



[共 催] 衣笠総合研究機構 立命館グローバル・イノベーション研究機構(R-GIRO)  
[お問合せ] 衣笠リサーチオフィス TEL : 075-465-8224 FAX : 075-465-8342

[https://twitter.com/Rits\\_ResearchPR](https://twitter.com/Rits_ResearchPR)

<https://www.facebook.com/riceballseminar>

# 5.13

## 下地 ローレンス吉孝 日本学術振興会特別研究員 (PD)



■ 専門分野 <社会学 (国際社会学)>

■ 研究者の道に進んだきっかけ

学部時代に「アメリカン」(おもに米兵と日本の女性との間に生まれた人々)という言葉と概念を初めて知ったことがきっかけ。自分自身がまさにそのルーツであるにもかかわらず、大人になるまでその概念や歴史に触れてこなかったのはなぜか? その背景には、学問や社会における当該テーマの不可視化が関係していることがわかった。なぜ、アメリカンや「混血」「ハーフ」をめぐる研究が少ないのか、その問いに答えるために研究を始めた。

■ 研究内容

「人種編成論」という理論的枠組みをたよりに、日本社会における「混血」や「ハーフ」をめぐる歴史と生活史を分析した。歴史社会学と批判的人種理論の立場から、「日本人」と「ハーフ」という概念がいかに歴史的に人種化されてきたのか、また生活史においてはそれらの人種化が実生活の場面でいかに具体的な影響と効果をもっているのかを明らかにしてきた。

# 5.27

## 古川 勇氣 衣笠総合研究機構 専門研究員



■ 専門分野 <文化人類学 アンデス地域研究>

■ 研究者の道に進んだきっかけ

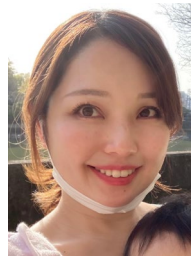
小学校の頃、超古代文明の不思議と『インディー・ジョーンズ』に刺激されて、いつかは海外の考古学をやろうと考えていました。学部の頃に、南米ペルーのマチュピチュを訪れて、古代文明のインカ帝国の末裔である現在の住民の暮らしに関心を持ちました。社会や文化を研究する文化人類学に習熟して、気づいたらペルー北部山村の研究にどっぷり浸かっていました。

■ 研究内容

南米ペルー北部山村では、2012年をピークに住民による鉱山反対運動が起きました。フィールドにいた私が見たニュースは、一致団結した抗議パレードとそれを抑え込む警官隊との血みどろの衝突を報じていました。その後、フィールドで鉱山からの補償を期待して迎合する村人がいることを知ると、住民の感情は一枚岩でなく、濃淡があることに気づきました。そうした感情の機微が、必ずしも対立関係だけではない、別の方途を導いてくれるのではないかと思ひ、今の研究を続けています。

# 6.10

## 寺澤 優 衣笠総合研究機構 専門研究員



■ 専門分野 <日本近代史 風俗史 女性史>

■ 研究者の道に進んだきっかけ

高校留学中にこれまで得意だった歴史科目を受講したものの、高度な英語をつかう授業についていけなかったことが原因で成績が落ちてしまったのですが、悔しさのあまり日本語ならできらうという安易な考えで、大学では日本史の道に進みました。そこから自分でも問いをたて、史料を探し、仮説を実証していくという作業の楽しさや、近代史ではたくさんの新出史料に出会えることの面白さに惹かれ大学院に進んで研究を続け、今に至ります。

■ 研究内容

戦前の日本社会を性産業という切り口から研究しています。これまで性にまつわる歴史は「被害」として語られがちで、性産業についても国が管理する「公娼制度」の問題解明が研究の主題となってきました。しかし性と人間や社会はそれほど単純なものではなく、もっと根深い関係にあるのではとの考えから、公娼ではなくこれまでほとんど語られることのなかった都市部に存在した私娼街や私娼を新史料を発掘しながら、その存在形態や社会との関係性を解明しています。

# 6.24

## 桐原 尚之 衣笠総合研究機構 専門研究員



■ 専門分野 <障害学>

■ 研究者の道に進んだきっかけ

この社会では、障害者とラベリングされたことで、障害を理由に分離教育を余儀なくされ、高等部卒業まで十分な教育を受けられないまま過ごす人や非自発的入院のあとに拘束を受けて職や婚約者を失う人がいる。このような問題が社会の一部で始終おきており、同時代の事象を言語化し、解釈を付与していく社会学の研究を通じて問題を発信する必要性があると考えて研究者を目指すようになった。

■ 研究内容

これまで精神障害者の社会運動は、精神医学や社会福祉学を中心に個人に変化を与える集団という観点から研究されてきた。そのため、社会に変化を与える精神障害者の社会運動としての歴史は、断片的な記録があるにとどまり、体系的な研究は先送りにされてきた。このように一面的な歴史記述によって精神障害者の社会運動の歴史が不可視にされてきたことは問題がある。精神障害者の社会運動の歴史を明らかにする。